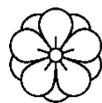


「児童理解と合理的配慮のために」

読み書きの 苦手さ



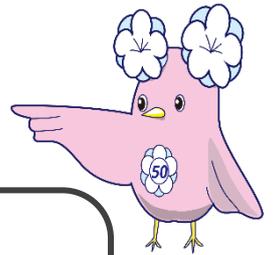
青梅市立河辺小学校
ことばときこえの教室

東京都青梅市河辺町5-24
0428-22-2103

WEB



○読み書きの苦手さってどんなこと？



読み

- 音読がたどたどしい
- 文字の読み誤りがある
- 単語のまとまりを捉えていない
- 内容を理解していない
- 読むことに強い疲労感を感じる

書き

- 文字の形を覚えられない
- 書くのに時間がかかる
- 字形が崩れる・鏡文字になる
- 筆圧が濃い・薄い
- 特殊音節が正しく書けない

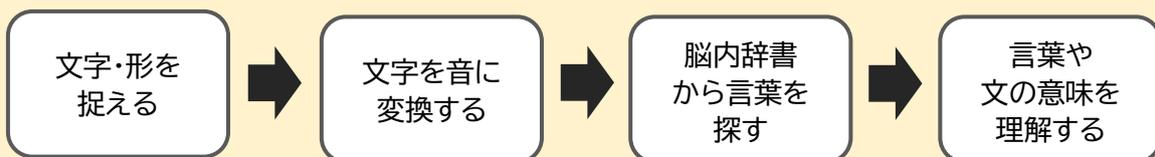
環境的な要因が直接的な原因となるものではなく、本人の努力不足ではありません。

ただし、知的な課題があったり、弱視や難聴があったりする場合にも読み書きの苦手さが見られることがあります。その場合は、別の対応が必要になります。

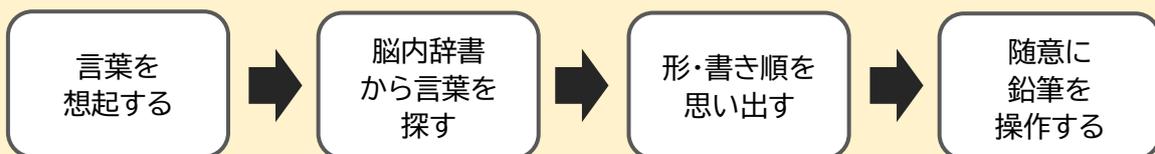
読んだり書いたりするためには、いくつかのプロセスがあります。このいずれかに苦手さがあると、読み書きの苦手さが見られるようになります。プロセスのどこに苦手さがあるかによって、指導内容が異なります。

通級では、今もっている力や苦手さがどこにあるのかを確認し、指導内容を考えます。どうすれば、少しでも楽に学習できるかを一緒に考えていきます。

読んで理解するプロセス



言葉を書くプロセス



○どんなことで困るの？

読み

- 文章の内容理解に時間がかかる
- 問題文が読めず、テストが終わらない
- 文字から言葉を覚えられない
- 授業での音読などがプレッシャーになる
- 黒板の指示理解に時間がかかる
- 文字が歪んで見えることで気分が悪くなる

書き

- 板書を写すことに時間がかかる
- ノートの字が崩れ、読み返すことが難しい
- 正しく書けず、テストで減点される
- 繰り返し書く方法で暗記することが難しい
- 一般的な漢字の宿題では効果が少ない
- 修正しながら作文することに労力がかかる

読んだり書いたりすることは、ほとんどの学習場面で活用する力です。
そのため、読み書きに苦手さがあることで、学習全般に苦手さが及ばないように、
少しでも苦手さを軽減したり、読み書きを代替する手段を使ったりすることで、
前向きに学習に取り組めるようにすることが大切です。【二次障害の予防】

○先生にお願いしたいこと

児童の学年、苦手なことなどの実態によって、ご協力をお願いする支援の形は様々です。
検査結果等も加味しながら、児童一人一人に合った方法を考えます。

1年生

ひらがなを覚えられない
鏡文字になる
字形が整わない

- ・机に50音表を入れておく
- ・ひらがなの、止め跳ね払いなど、求める基準を下げる

3年生

板書に時間がかかる
書字に負担がかかる
文章の区切りが曖昧

- ・板書のコピーを手元に置く
- ・運筆補助具を使う
- ・文にスラッシュを入れたり、分ち書きにしたりする。
- ・スリットを使って音読する

6年生

漢字を覚えられない
音読で内容を理解できない
書くことに時間がかかる

- ・ルビ付きのテストを用いる
- ・音声ペンの活用や、別室で読み上げる対応をする
- ・タブレット入力をさせ、書く量を減らす

高学年になるにつれ、トレーニングの効果は薄れてきます。
そのため、持っている力を高める指導に加え、代替手段を使って負担を減らすなどの
環境面の整備も大切です。

○ことばときこえの教室でやっていること

得意な力と苦手な力を確かめる(各種検査で確かめを行います。)

- ・ 全体的な発達と、発達の偏りを確かめる (WISC-IV、KABC-IIの実施)
- ・ 目と手の協応の力を確かめる (WAVESの実施)
- ・ 眼球運動の力を確かめる (目印の付いた棒を使って実施)
- ・ 音韻意識 (音の捉え、音文字の一致) を確かめる (ELCの実施)
- ・ デコーディング (文字→音変換) の力を確かめる (RANの実施)
- ・ 言語力について確かめる (PVT-R、LCSAの実施)
- ・ 読み書きの習熟レベルを確かめる (読み書きスクリーニングの実施)

もっている力を高めていく指導例

- ・ 個々の認知特性を生かした学習方法の提案
- ・ 手先の巧緻性を高める活動 例) 粗大運動、微細運動
- ・ 文字の形を捉えるための学習 例) タングラム、形探し
- ・ 見た対象物に合わせて手や体を動かす活動 例) ビー玉迷路、点つなぎ、ペグボード
- ・ 文字から音への変換を速くする練習 例) フラッシュカード
- ・ 音韻意識を高める活動 例) しりとり、「た」ぬきことば
- ・ 語彙を増やしたり、用いる言葉の意味を確認したりする学習 例) 言葉探し
- ・ 拗促音の仕組みや感覚を掴む学習
- ・ ワーキングメモリーを高める学習 例) 数字や言葉の復唱・操作

代替手段を活用し、読み書きを補助する指導例

- ・ デジタル教科書や音声ペンの使い方の確認 (在籍学級担任との連携)
- ・ スリットやカラールーペの活用
- ・ 音声入力や手書き入力の使い方の確認
- ・ タイピングの練習
- ・ 教科書の文章にスラッシュをいれる
- ・ 自分に合った環境の自己理解啓発、周囲の人への配慮の求め方の確認
- ・ 受験時の合理的配慮の受け方の確認



<参考文献>

- ・ 特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン、診断と治療社【稲垣真澄】
- ・ 読み書きのプロセスの理解とみる力が弱い子どもへの支援、神奈川LD協会【奥村智人】